



独立した第三者保証報告書

相鉄ホールディングス株式会社
代表取締役社長 滝澤 秀之 殿

ソコテック・サーティフィケーション・ジャパン株式会社(以下、「SOCOTEC」という。)は、相鉄ホールディングス株式会社(以下、「会社」という。)からの委託に基づき、会社が作成した主題情報(“2023 年度相鉄グループ GHG 排出量算定報告書”(期間: 2023 年 4 月 1 日~2024 年 3 月 31 日))がすべての重要な点において規準に適合しているかについて限定的保証業務を実施した。

1 主題情報と規準

保証対象となる主題情報は、“2023 年度相鉄グループ GHG 排出量算定報告書”(期間: 2023 年 4 月 1 日~2024 年 3 月 31 日)に記載された会社と会社の連結会社(日本国内子会社 22 社、海外子会社 3 社)における日本及び海外の運営並びに活動を対象範囲とする、“エネルギー起源 CO2 排出量(Scope 1, Scope 2(ロケーション基準、マーケット基準))に関する報告”である。

主題情報を作成する規準は、“相鉄グループ GHG 排出量算定手順書(Ver1.0)”である。

また、会社がサステナビリティ・リンク・ローンによる資金調達を目的として、国際資本市場協会(ICMA)の「サステナビリティ・リンク・ボンド原則(2023)」、ローン・マーケット・アソシエーション(LMA)、アジア太平洋ローン・マーケット・アソシエーション(APLMA)、ローン・シンジケーション&トレーディング・アソシエーション(LSTA)の「サステナビリティ・リンク・ローン原則(2023)」、環境省の「サステナビリティ・リンク・ボンドガイドライン 2022 年版」及び「サステナビリティ・リンク・ローンガイドライン 2022 年版」にしたがって策定した「相鉄ホールディングス株式会社 サステナビリティ・リンク・ファイナンス・フレームワーク 2024 年 3 月」(以下、「相鉄ホールディングス株式会社 SLL フレームワーク」という。)において、SPT の進捗状況に係る毎年のレポートと第三者機関による検証を受けることが規定されている。したがって、本検証では、上記の主題情報に加えて、KPI: 相鉄グループにおける CO2 排出量(Scope 1+2)の削減率、SPT: KPI の目標値である相鉄グループにおける CO2 排出量を 2030 年度までに 2020 年度対比 42%削減の進捗状況、主題情報を作成する規準を“相鉄ホールディングス株式会社 SLL フレームワーク”とした。

主題情報 期間: 2023 年 4 月 1 日~2024 年 3 月 31 日			
エネルギー起源 CO2 排出量			
Scope 1:	40,882	t-CO2	
Scope 2: ロケーション基準:	125,394	t-CO2	
マーケット基準:	109,676	t-CO2	
サステナビリティ・リンク・ローン(SLL)関連データ			
KPI: 相鉄グループ(相鉄ホールディングス株式会社及び国内の連結子会社)における CO2 排出量(Scope 1+2)の削減率			
SPT*: KPI の目標値である相鉄グループにおける CO2 排出量を 2030 年度までに 2020 年度対比 42%削減			
2023 年度実績値:			
排出量	Scope 1:	29,423	t-CO2
	Scope 2: ロケーション基準:	122,338	t-CO2
	マーケット基準:	106,369	t-CO2
相鉄グループにおける CO2 排出量削減率	8.3%	Scope 1+2(ロケーション基準):	151,761 t-CO2
相鉄グループにおける CO2 排出量を 2030 年度までに 2020 年度対比 42%削減の進捗状況	19.8%	Scope 1+2(マーケット基準):	135,792 t-CO2
*SPT(サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット)			

2 経営者の責任

“2023 年度相鉄グループ GHG 排出量算定報告書”(期間: 2023 年 4 月 1 日~2024 年 3 月 31 日)は、会社の経営者によって作成された。会社の経営者は、そこで行われている主張、陳述及び主張の完全性(限定的保証を提供するために従事してきた主張を含む)、報告書内の全てのデータ及び情報の収集、定量化及び提示ならびに適用した規準、分析及び公表に責任がある。

会社の経営者は、報告プロセスをサポートし、故意または過失によるものであるかどうかにかかわらず、“2023 年度相鉄グループ GHG 排出量算定報告書”(期間: 2023 年 4 月 1 日~2024 年 3 月 31 日)に重大な虚偽記載がないことを保証するように設計された適切な記録及び内部統制を維持する責任がある。

3 保証会社の責任

SOCOTEC の責任は、主題情報がすべての重要な点において規準に準拠して作成されているかどうかについて、限定的保証の結論を表明することにある。

SOCOTEC は、SOCOTEC の定める検証手順及び「JIS Q 14064-3:2023 (ISO 14064-3:2019) 温室効果ガスに関する声明書の検証及び妥当性確認のための仕様及び手引」に準拠し、限定的保証業務を実施した。

限定的保証業務で実施する手続は、合理的保証業務で実施する手続と比べて、その種類、時期、範囲において限定されている。その結果、SOCOTEC が行った限定的保証業務は、合理的保証業務ほどには高い水準の保証を与えるものではない。

SOCOTEC が実施した手続は、不正又は誤謬を問わず重要な虚偽表示のリスクの評価をはじめとして、職業的専門家としての判断に基づいている。SOCOTEC の結論は、会社の内部統制に対して保証を提供するものではない。

SOCOTEC は、限定的保証における結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。



4 保証手続

SOCOTEC が実施した手続は、職業的専門家としての判断に基づいており、以下を含んでいるがそれらに限定されない。

- 会社が主題情報に関連して作成した方針や手続の評価
- 上記方針手続を理解するための会社担当者への質問
- 対象プロジェクトが適格性要件を満たしているかの確認
- 試算による根拠資料との照合、再計算
- 重要な仮定や他のデータに関する根拠資料の入手、照合
- 算定体制と手順の確認、データの収集及び記録管理の実施状況を確認するための視察先：
本社 / 横浜熱供給株式会社の第1 エネルギーステーション

5 独立性と品質管理、力量の声明

SOCOTEC は、「ISO17021 適合性評価-マネジメントシステムの審査及び認証を行う機関に対する要求事項」の認定要求事項に適合する包括的なマネジメントシステムを導入し、維持している。又「ISO14065 温室効果ガス-認定又は他の承認形式で使用するための温室効果ガスに関する妥当性確認及び検証を行う機関に対する要求事項」にしたがってマネジメントシステムを確立している。これらは国際監査・保証基準審議会による国際品質管理基準1と国際会計士倫理基準審議会による職業会計士の倫理規定における要求を満たすものであり、倫理規則、職業的専門家としての基準及び適用される法令及び規則の遵守に関する文書化した方針と手続を含む包括的な品質管理システムを維持している。

SOCOTEC グループは、検査、試験、認証業務における総合的な第三者機関であり、世界の国々で品質、環境、労働及び情報セキュリティにかかわるマネジメントシステム認証業務やトレーニングサービスを実施しており、環境、社会情報のパフォーマンスデータ及びサステイナビリティ報告書保証業務を行っている。SOCOTEC は、本保証業務を依頼した組織やその関連会社、ステークホルダーからも独立しており、公平性を損なう可能性や利害の抵触がないことを断言する。

本保証業務に携わったチームは、知識や当該産業分野における経験、そして本保証業務に関する力量基準に基づき構成されていることを保証する。

6 報告書の利用

限定的保証業務における SOCOTEC の責任は、合意した条件に基づいて、会社の経営者にのみ負うものである。したがって、目的にかかわらずそれ以外のいかなる個人や組織に関しても責任を負わない。

7 結論

SOCOTEC が実施した手続及び入手した証拠に基づいて、主題情報が規準に準拠して作成、開示されていないと信じさせる事項はすべての重要な点において認められなかった。

ソコテック・サーティフィケーション・ジャパン株式会社
執行役員社長 二場 誠吾

Seigo Futaba

2024年9月30日